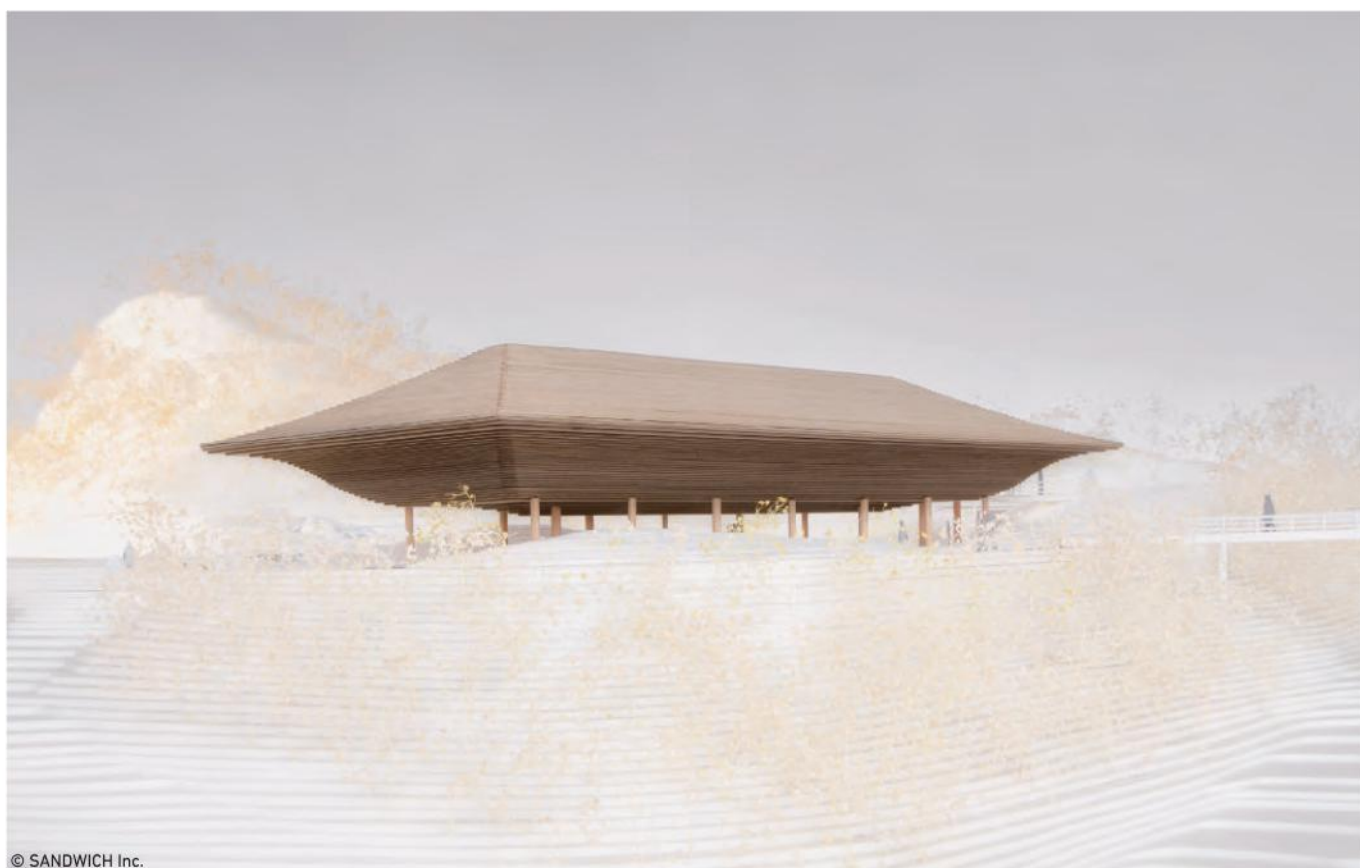


見る。歩く。休む。瞑想する。ゆっくり禅を楽しむ体験。

## 「神勝寺 禅と庭のミュージアム」

名和晃平 | SANDWICH 設計アートパビリオン  
名称は「洗庭 (こうてい)」



今年の秋 2016年9月11日(日)にオープンする「神勝寺 禅と庭のミュージアム」を象徴する名和晃平 | SANDWICH 設計のアートパビリオンの名称と概要をご案内申し上げます。

### 神勝寺 禅と庭のミュージアム 概要

■開館日程：2016年9月11日(日) ■所在地：〒720-0401 広島県福山市沼隈町大字上山南91  
■アクセス：<http://shinshoji.com/access/#a01> ■開館時間：9:00-17:00 (最終入場は16:30まで)  
■休館日：不定休 ■入館料：未定(公式ホームページ7月開設予定) ■館へのお問合せ先：TEL 084-988-1111  
(寺務所)担当：山下 ■広報用画像・取材に関する問合せ：TAIRA MASAKO PRESS OFFICE 担当：平(たいら)  
info@tmpress.jp M 090-1149-1111

禅寺である神勝寺の境内に建つアートパビリオン「洗庭」。伝統的なこけら葺きを応用し、全体を木材で柔らかく包んだ舟型の建物が、石のランドスケープの上に浮かぶ。物質感のある石の海を抜け、ゆるやかなスロープを上がり、小さな入り口から舟のなかへ入ると、暗がりの奥には海原が広がり、静かに波立っている。波間には、かすかな光が反射している。（名和晃平）



© SANDWICH Inc.

【建築概要】 敷地面積：4700 m<sup>2</sup> 建築面積：796 m<sup>2</sup> 構造：鉄骨造 素材：サワラ材

## 【名和晃平 | SANDWICH 略歴】

### 名和晃平 彫刻家

1975年大阪生まれ。彫刻家。京都造形芸術大学大学院美術研究科教授。

2009年京都・伏見区に創作のためのプラットフォーム「SANDWICH」を立ち上げる。2011年、東京都現代美術館で個展「名和晃平・シンセシス」、2015年PACE LONDONで個展「FORCE」を開催。画素のPixelと細胞のCellを組み合わせた独自の「PixCell」という概念を機軸に、ビーズ、プリズム、発泡ポリウレタン、シリコンオイルなど様々な素材とテクノロジーを駆使し、彫刻の新たな可能性を広げている。



Photo : Nobutada OMOTE | SANDWICH

### SANDWICH Inc.

「SANDWICH」は京都・伏見の宇治川沿いにあるサンドイッチ工場跡をリノベーションして生まれた、創作のためのプラットフォーム。アート・建築・デザインなどの異なったジャンルのクリエイターが集い、新しい表現を繰り広げています。建築チームは名和晃平・李仁孝・古代裕一がディレクターとなり発足。コンテンツラーアートを基軸とし、彫刻的な概念をポキャブラリーとして活かしながら、ソフトとハードを同時に立ち上げる空間表現の可能性を追求します。発案されたコンセプトやイメージを元に、設計チームがデジタルベースでスタディを重ね、それを元に、素材や手法を開発する制作チームが創意工夫を加え、各チームが連動しながらプロジェクトが具現化していきます。スタジオには定期的に国内外の若手クリエイターが滞在。週末は美大生を巻き込んだプロジェクトが展開され、京都から世界へ新しい表現を発信し続けています。



Photo : Shungo Takeda

広島県福山市の山間に佇む天心山神勝寺(てんしんざんしんしょうじ)(※1) その広大な敷地内に広がる禅庭の散策をはじめ、数々の伽藍や茶室に展示された禅画・墨蹟の鑑賞、古典建築と共に現代建築や、アートパビリオンの空間体験など、訪れる人がそれぞれのペースで歩き、休み、そして考える静かなひとときを見出すことがテーマです。

#### ① 建築、アートが一体となったアートパビリオン「洗庭(こうてい)」

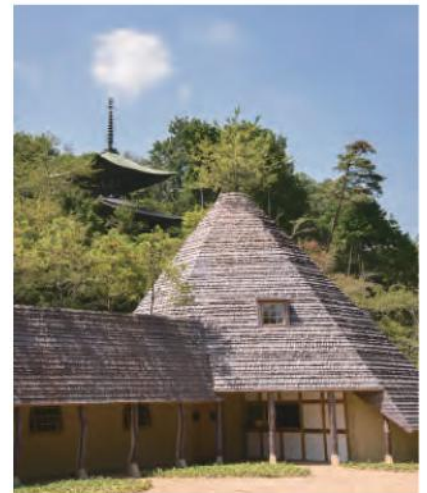
SANDWICH設計による、木材で包まれたワンマテリアルの舟型の建物とその内部の空間で、波に反射する光を体験する名和晃平氏による新作インスタレーション。

#### ② 白隠を中心とする 1500 点におよぶ禅画・墨蹟コレクション

1500点におよぶ禅の書画コレクションの中から、江戸時代に斬新で特異な方法で禅を表現した白隠禅師の禅画墨蹟を中心に、随時20~30点が境内の諸堂に展示されます。ガラスケースに収められていない作品はより身近な鑑賞が可能です。また展示内容は禅画研究の第一人者、芳澤勝弘氏(花園大学国際禅学研究所顧問)によって解説されます。

#### ③ 藤森照信氏設計による寺務所「松堂」

縄文建築で知られる建築家・建築史家の藤森照信氏設計による寺務所<松堂>は銅板屋根を特徴とし、土地を代表する樹木、赤松が随所に使用されたユニークな建物です。神勝寺のエントランスでもあり、内部では資料の展示、関連書籍やグッズ、お土産の販売を行っています。



#### ④ 坐禅や写経の体験

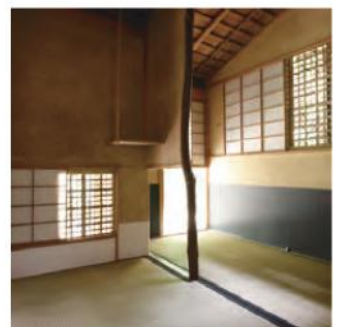
雑念をなくし、心と身体を整え自分を見つめる禅修行体験として坐禅や写経の体験を行っています。

#### ⑤ 雲水(修行僧)の饅頭や湯豆腐などの食事体験

天心山神勝寺では「神勝寺うどん」として臨済宗の僧堂(修行道場)で雲水(修行僧)が食べている形式の食事が体験できます。また、昨年から茶房がある含空院で湯豆腐のお食事もお庭を鑑賞しながらお楽しみいただけます。

#### ⑥ 境内に移築・新設された門や塔、茶室などの建物

京都にあった旧賀陽宮邸の門を移築した総門をはじめ、鎌倉時代初期の名作、滋賀県大津市石山寺の国宝多宝塔を模して建立された多宝塔(たほうとう)、鎌倉の臨済宗建長寺派大本山建長寺の中にある建長寺専門道場(修行道場)の坐禅堂を譲り受け移築再建された大徹堂(だいてつどう)、滋賀県臨済宗永源寺派大本山永源寺より移築再建した建物含空院(がんくういん)などの古建築、また、建築家・中村昌生氏によって、表千家の名茶室、残月亭、不審菴およびその路地を、古図を基に再現された茶席秀路軒(しゅうろけん)、千利休が晩年に京都の聚楽屋敷に建てたといわれる一畳台目の茶室の復元など、広大な敷地の中には歴史的に見ても興味深い建築が巧みに配置されています。



臨済宗である神勝寺には1500点におよぶ禅の墨蹟コレクションがある。臨済禅は室町期に成立した、庭、建築、茶など日本文化の根幹に大きな影響を与えたが、その精神性を代表するものが墨蹟文化である。このような墨蹟に特化したコレクションは他に例を見ないものであろう。その中心は何といても220点の白隠の禅画と墨蹟である。白隠の表現は時空を超えて訴えるものを内包した、稀有の禅的メッセージである。

芳澤勝弘（花園大学国際禅学研究所顧問）

#### 芳澤勝弘

1945年生まれ。同志社大学卒業。財団法人禅文化研究所主幹を経て、2014年度まで花園大学国際禅学研究所教授。現在、同研究所顧問。専攻は禅学・日本文化史。近年は「日本臨済禅中興の祖」白隠禅師の研究を手がけ、国内外で「白隠フォーラム」を開催してきた。白隠に関する主要著書に、『白隠禅画墨蹟』全3巻（2009、二玄社）、The Religious Art of Zen Master Hakuin（2009 Couterpoint USA）、『白隠禅師の不思議な世界』（Wedge出版、2008）、『白隠禅師法語全集』全14巻（禅文化研究所、1999～2003）、『白隠禅画をよむ』（Wedge出版、2012）、『白隠—禅画の世界』（2016、中国、河北教育出版社）、別冊太陽『白隠』（2013、平凡社）、『白隠—禅画の世界』（2005、中公新書。2016年、角川ソフィア文庫）

#### [天心山神勝寺（てんしんざんしんしょうじ）とは]（※1）

天心山神勝寺は、昭和40年（1965年）12月2日益州宗進禅師（臨済宗建仁寺派第7代管長・竹田益州老大師）に深く帰依された開基神原秀夫氏が、禅師を開山に招請して建立された臨済宗建仁寺派の特例地寺院である。神勝寺は亡くなられた方々の供養の場であると共に、広大な境内には無明院や国際禅道場など多くの伽藍が建ち並び、また表千家不審庵の古図を忠実に再現した「秀路軒」などの茶室を設けるなど、「禅」と「茶道」を根本として日本のみならず海外にも広く門戸を開いた禅寺です。また、近年は、縄文建築で有名な、建築家・建築史家の藤森照信氏による寺務所<松堂>も完成し瀬戸内海でも特徴的な赤松を使用したユニークな建築が寺のシンボルとして参詣者をお迎えします。 <http://shinshoji.com/>



#### 取材に関する問合せ

TAIRA MASAKO PRESS OFFICE 担当：平（たいら）info@tmpress.jp

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 5-15-10 #810 M 090-1149-1111 F 03-3468-8367